

領域	専門分野Ⅱ	授業科目	老年看護学Ⅲ	単位(授業時間/時間数)	1(14/30)
開講年次	2年次	開講時期	通年	授業回数	7回
担当講師名	非常勤講師	講師所属			
特記事項	—			—	

授業のねらい

加齢現象により身体的・生理的な諸機能が低下していく。その為、老年者の心身の変化を捉え、老年者特有の疾病・症状を知り検査や治療に対する援助方法を理解する必要がある。

また、健康障害をもつ高齢者が、できるだけ自立した状態で、生活が送れるように基本的援助の方法を教授し、QOLを高めるための看護の役割が理解できるように教授する。

授業目標

脳神経機能障害をもつ患者の看護の方法を理解する。

脳血管障害患者のリハビリテーションの実際を理解する。

授業概要

1. 患者の看護
 - 1) 症状・障害をもつ患者の看護
 - (1) 意識障害のある患者の看護
 - (2) 言語障害のある患者の看護
 - (3) 運動麻痺のある患者の看護
 - (4) けいれんをおこす患者の看護
 - (5) 頭蓋内圧亢進症状のある患者の看護
2. 疾患を持つ患者の看護
 - 1) 脳梗塞患者の看護
 - 2) パーキンソン病患者の看護
 - 3) クモ膜下出血患者の看護
3. 治療を必要とする高齢者の看護
 - 1) 検査・治療を受ける高齢者への看護ケア
 - (1) 検查看護ケア
 - (2) 薬物療法と看護ケア
 - 2) 疾患をもつ高齢者への看護ケア
 - (1) 脳卒中

授業の進め方

講義

教科書

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔7〕脳・神経(医学書院)
 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学(医学書院)
 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論(医学書院)

参考図書

評価方法

終講時 客観式テスト(50点)

試験時間は時間数に含む。

領域	専門分野Ⅱ	授業科目	老年看護学Ⅲ	単位(授業時間/時間数)	1(14/30)
開講年次	2年次	開講時期	通年	授業回数	7回
担当講師名	専任教員	講師所属	福岡水巻看護助産学校		
特記事項	実務経験のある教員による科目			臨床(病院)での 看護師 の実務経験をふまえ臨床に即した授業・演習を行なう	

授業のねらい

高齢者は、加齢変化や疾病による障害、慢性疾患など解消することのできない弱みを多くかかえている。ここでは、高齢者が罹患しやすい健康障害の看護の中で、認知機能の障害をもつ高齢者について学ぶ。その中で、できるだけ自立した状態で、生活が送れるように認知症の正しい理解とケアの方法を教授し、QOLを高めるための看護の役割を理解する。また、高齢者の死について学び終末期における高齢者に対する看護の役割を理解する。

高齢者の事例を用いて、高齢者の健康課題をアセスメントする際、生活場面から高齢者を全人的に「その人らしさ」を理解していく。また、潜在・顕在している能力(ストレングス)に着目した看護過程の展開をすることで、疾病を持つ高齢者を総合的に捉え、個別性を踏まえ、できないことだけでなく問題解決する能力を身につける。また、看護展開する中で、加齢変化に対する配慮と、廃用症候群発生の予防に対する視点を身につける。

授業目標

1. 高齢者の特徴の中で認知機能が障害されることに対する身体的・精神的・社会的問題について学ぶ
2. 高齢者の終末期における看護の役割について考える
3. 高齢者の看護過程の展開の方法を理解する

授業概要

1. 認知機能の障害に対する看護ケア(4時間)
 - 1) 認知症
 - (1) アルツハイマー型認知症
 - (2) 脳血管性認知症
 - (3) 前頭側頭型認知症
 - (4) レビー小体型認知症
 - (5) 正常圧水頭症
2. 終末期における看護ケア(2時間)
3. 看護過程展開 事例展開(8時間)
 - 1) 高齢者の看護過程
 - (1) アセスメント
 - (2) 看護の視点と全体像
 - (3) 看護計画の立案と評価
 - (4) 臨地実習で活用する際の留意点

授業の進め方

講義、グループワーク

教科書

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔7〕脳・神経(医学書院)
 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学(医学書院)
 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論(医学書院)

参考図書

生活機能からみた老年看護過程+病態・生活機能関連図(医学書院)
 配布資料

評価方法

終講時 客観式テスト+授業取り組み状況(50点)
 試験時間は時間数に含む。